

報告

第 42 回 技術士全国大会(北陸・富山) 報告

長 井 智 典

1. はじめに

第 42 回技術士全国大会は、2015 年 10 月 1 日(木)～4 日(日)の 4 日間の日程で、北陸新幹線開業で沸き立つ富山市で開催されました。全国からの参加者数は 536 名、北海道からは、北東 3 地域本部技術士交流研修会での交流もあり、昨年福岡を超える 47 名が参加しました。



写真－1 富山駅と路面電車

2. 大会の概要

(1) 大会のテーマ及び大会宣言

今回のテーマは、「高志の国から未来創造 ～日本海国土軸形成を目指して～」でした。高志(こし)という表記は 7 世紀の地方区分であり、現在の福井県敦賀市から山形県庄内地方の一部を含む地域の名称だそうです。北陸の各地に「高志」の地名が残っており、北陸の連携を育む表記、かつ高い志を持って全国大会を実施したいという思いから本テーマとなったそうです。

大会宣言は、開催地富山県支部の広田史子技術士により宣言されました。内容は次のとおりです。

私たち技術士は、本日第 42 回技術士全国大会で、ものづくりの意気あふれ、自然豊かな北陸の地、富山に集いました。技術士は、先端科学から身近な生活にいたるまで、その技術により社会に対して大き

な責任を有しています。これまで培われてきたその技術を受け継ぎ、さらに高め、豊かな未来へとつなげるため、以下の通り努めていくことを宣言いたします。

- 1 地域技術者リーダーとして、プロフェッショナルエンジニアの自覚を持ち、技術士の継続研鑽に努めます。
- 2 安全で安心な暮らしの実現をめざし、防災・減災に関する活動をすすめます。
- 3 技術士制度を広く普及・啓発していくため広報活動を充実させるとともに、地域間の交流と連携を高めて技術士が国民の身近な存在として感じてもらえるよう活動を進めます。

(2) 会場

大会会場は、富山市大手町にある富山国際会議場で、3 階ホワイエからは富山城(模擬天守：昭和 29 年築)を望むことができました。



写真－2 富山城

(3) スケジュール

【10 月 1 日(木)】

- ・第 3 回技術者倫理ワークショップ
- ・第 11 回全国防災連絡会議
- ・学術見学会 A、B
- ・ウェルカムパーティー

【10月2日(金)】

- ・第1～第4分科会
- ・ランチョンセミナー
- ・大会式典
- ・記念講演
- ・交流パーティー
- ・パートナーズツアー
- ・展示コーナー

【10月3日(土)】

- ・テクニカルツアー(日帰り・1泊2日)
- ・青年技術士の集い

【10月4日(日)】

- ・テクニカルツアー(1泊2日)

3. 全国大会

(1) 大会式典

大会式典は、富山国際会議場 3 階メインホールに 400 名弱の参加者を集め開催されました。開会の唄「こきりこ節」(世界遺産五箇山を代表する日本で一番古い民謡)に続き、大会委員長である大谷北陸本部長が歓迎の挨拶をされました。続いて、吉田会長の式辞、文科・農水・国交各省並びに富山県知事・富山市長からの祝辞、来賓紹介、祝電披露、分科会報告、大会宣言、記念講演と続きました。



写真－3 大会式典風景

(2) 分科会報告

式典前に開催された各分科会の報告が各座長より行われました。分科会テーマと報告概要は次のとおりです。

【第1分科会(防災)】「北陸の地域防災を考える」

- ・事前復興や事前防災行動計画による地域防災と地域強靱化を推し進めるべき。
- ・地域における多様な自然災害への対応、教訓を継承した防災学習の推進が必要。
- ・土地利用の水平・垂直誘導、自然災害保険の加入促進。
- ・支援体制の充実、地域協働型社会の構築、情報化の進展が課題。

【第2分科会(日本海国土軸)】「日本海国土軸」北陸からの発信

- ・持っている良いものに気付いて意識することが求められる。
- ・各都市、各地域が個性を発揮し、そして連携することが大切。
- ・各技術士が地域のプレーヤーとなることが重要。

【第3分科会(環日本海)】「北東アジア交流圏の活用」～東アジア地域での技術士の交流～

- ・若手の育成、技術の伝承、地域貢献(身の回り→地域→国→世界)は技術士の使命。
- ・決して無理をせず、派手ではなく、自然体で取り組むのがコツ。

【第4分科会(地域産業振興)】「新しい豊かさ実現のための地域産業の展開」

- ・行政との連携、グローバル化、若手育成が重要。

(3) 記念講演

記念講演は、京都大学大学院教授で内閣官房参与の藤井聡氏が「国土強靱化に資する日本海国土軸の形成」と題し講演されました。

藤井教授は、本全国大会実行委員で富山県支部副支部長の市森技術士と大学の同級生という縁で講演を引き受けられたそうです。

講演でははじめに「技術を軽視すると国が脆弱化する。広義の技術とは、現実のあり様、事実そのもののパターンを予測する能力のこと」と説明され、ユーモアを交えつつバラマキと報じた新聞記事やデマへの反論エピソードを紹介された。その上で「政府は限られた予算内で、平時の地方創生と有事への防災対策が必要であり、一粒で二度も三度もおいしいものを目指すことが合理的」と説明された。

その後、講演テーマについて触れられ、新幹線整備と都市の発展例から、「半世紀前に北陸新幹線が出来ていたら国土のあり様は違っていた」と話され、海外の新幹線ネットワークの事例から、「海外程度のインフラ整備が出来ない、公共のために投資しない日本は下品な国」と指摘された。また、道路整備についても同じことが言えるとされ、「インフラは海外と比較すべきでありイギリスやアメリカ、ドイツに無駄な道路は無い。インフラが経済にインパクトをもたらすのは事実であり、日本は外国から取り残されている。成長できなくなる。」と話された。そして、道路総延長と GDP 成長率との関係、インフラ投資と名目 GDP の関係を解説し、公共投資の重要性とそれに対するリスクの低さ、デマの多さから技術が廃れることを危惧され、最後に、技術士の皆さんに対し、下品ではなく高い志を持って社会の発展に貢献して欲しいと結ばれました。

(4) 交流パーティー

交流パーティーは国際会議場に隣接する ANA クラウンプラザホテル富山の 3 階鳳の間で、300 名を超える参加者を迎えて開催されました。大会実行委員長の開会の挨拶を皮切りに、富山県土木部長の歓迎挨拶、富山県農林水産部長の乾杯の発声と共に開宴となりました。



写真-4 越中八尾おわら風の盆

アトラクションは「越中八尾おわら風の盆」が披露され、その後、次の全国大会開催地（横浜）の紹介（統括本部の皆さんが壇上にて、中島みゆきの「地上の星」を熱唱されました。）があり、パーティーは盛会のままお開きとなりました。



写真-5 北海道本部の皆さん



写真-6 北東3地域の二次会

また、交流パーティー後は、北東3地域として交流深い、北陸本部・東北本部との二次会に流れ、さらに盛会となりました。

4. オプショナル行事

(1) 学術見学会 A

過去の経緯は不明ですが、近年の全国大会では珍しい「学術見学会」が今回開催されました。学術見学会の A コースは、「日本海国土軸形成に向けた、YKK 黒部事業所の取り組み」と題し、YKK の工場を見学しました（参加者 29 名）。

先ず、大会議室にて YKK グループの概要（世界 71 カ国・地域で 111 社、連結売上高 7,210 億円、従業員数 42,032 名など）



写真-7 YKKでの概要紹介
をご説明いただいた後、ファスニング工場を見学しました。工場の敷地は東京ドーム 38 個分あるため、バスによる移動となり、その後、YKK センターパークを訪問しました。YKK センターパークではファスナーや窓の仕組み、各種製品展示を見学するとともに、創業者の吉田忠雄記念室を見学し、海外の為替動向などを記した細かな自筆メモ帳に驚かされました。最後に、「価値検証センター」にて生活者視点でのアルミ建材実証試験を見学し当日の予定は終了しました。

(2) 学術見学会 B

学術見学会の B コースは、「世界に発信する富山平野を守る常願寺川の河川・砂防技術について」と題し、参加者 23 名がバスにて富山駅を出発しました。最初に富山グリーンセンター展望台から常願寺川の洪水の激しさを示す巨石の見学と、日本の砂防技術の粋が展開される立山連邦を望み、その後本宮砂防堰堤～立山カルデラ砂防博物館を見学するコースでした。特に博物館では、安政の大災害と我が国の土木の原点ともいえる立山砂防



写真-8 博物館・立山砂防解説

の歴史と技術を紹介する様々な展示が見られ、見学者は帰りの出発の時間も忘れ、模型やジオラマ等に見入っていました。

(3) ウェルカムパーティー

式典前日の 10/1 には国際会議場近くの「グランドプラザ」にてウェルカムパーティーが開催されました。グランドプラザは中心商店街の賑わい創出に向け、商業施設に挟まれ南北に位置する通りを結ぶガラス屋根のかかった広場でした。イメージとしては札幌ファクトリーのアトリウムと狸小路を足したような広場で、台風崩れの低気圧による風雨により開催が心配されましたが、200 名を超える参加者の熱意により風雨も止み無事開催されました。



写真-9 北陸の銘酒



写真-10 女性ボーカルグループ

パーティーでは、富山の珍味(ほたるいか黒作り、ノドグロ干物など)と北陸の銘酒(新潟：麒麟山 純辛純米吟醸辛口、富山：満寿泉 大吟醸、石川：菊姫 純米酒、福井：梵 極秘造大吟醸 など)が振舞われ、参加者は、女性ボーカルグループ「grava：グラヴァ」(スペイン語で砂利や小石を意味する)の歌声と共に酔いしれていました。

(4) テクニカルツアー A

日帰りのテクニカルツアー A は、「世界遺産散策、富山が誇る海の幸を巡る旅」と題して、岐阜県白川郷と共に世界遺産となった相倉合掌造り集落での散策に始まり、いなみ木彫りの里創遊館、ひみ番屋街を巡るツアー(参加者 43 名)でした。

相倉(あいのくら)地区は、俱利伽羅峠の戦いで敗れた平家の落人が移り住んだとも言われるくらい



写真-11 合掌造りの集落

山奥の豪雪地帯にある集落で、まだ白川郷のように観光地化しておらず、全体 32 戸の内 20 戸が合掌

造りとなっている美しい風景の集落でした。

江戸時代中期に焼失した瑞泉寺の再建のため彫刻の技法を習ったのが、井波彫刻の始まり。南砺(なんと)市井波は多くの彫刻師が在住し、木彫りの里として有名です。館内では豪華な住宅用欄間や衝立などの伝統工芸品を見ることができました。

海鮮問屋・柿の匠で昼食を採った後、氷見市の漁港に隣接している道の駅「ひみ番屋街」に立ち寄りしました。日本屈指の漁場である富山湾で捕れる道内ではあまり見かけない新鮮な魚介類や干物等を見て回ることができました。

(5) テクニカルツアー B

1泊2日のテクニカルツアー B は、「アルペンルートと初秋の黒部峡谷を巡る旅」でした。事務局は参加しなかったのですが、北海道本部からは7名の参加があり、天候



写真-12 室堂平(玉殿の湧水)にて。室堂平の風景。とても良く素晴らしい景色を楽しまれたようです。

5. おわりに

本文中にも書きましたが、大会初日は台風崩れの低気圧が日本海で急速に発達し、富山県朝日町泊では夜に最大瞬間風速 32.6 メートル、最高気温 32 度を観測し各種行事の開催が心配されましたが、翌日から天気も回復し全プログラムが滞りなく実施されました。次回の全国大会は 2016 年 11/13(日)～16 日(水)に横浜で開催されます。今回参加されなかった方も是非一度大会へご参加いただき、技術士の交流を深めていただければと思います。

なお今回参加報告では、学術見学会 B は羽二生事務局長、テクニカルツアー A は森副本部長からのレポートでお届けしました。

長 井 智 典 (ながい ともり)

技術士(建設/総合技術監理部門)

日本技術士会北海道本部
事務局次長
株式会社ドーコン

